

# 中国におけるダルマエナガ属の分類研究

鄭作新

中国科学院動物研究所

訳 福井和二

概要；本文は我が国のダルマエナガ属に対して、新しい分類系統として、4亜属、14種を提示する。同時にムナグロダルマエナガの新亜種として貢山亜種を報告する。また、ダルマエナガ属の国内外の分布状況、亜種の形成から、起源地が我が国の西南にある横断山脈地域と推測される。

ダルマエナガ属はスズメ目にあつて嘴が特に短く厚い特徴をもつ、その長さより厚さが大きい、あるいは同程度で、嘴峰は円形を呈し、オウムに似ていることから、別名を鷓鴣雀インクワゴクとも言う。好んで群棲し、ヨシ原、灌木叢に潜み、枝葉の間を機敏に動き回る。

以前多くの学者がダルマエナガ属を独立の科とし、また、人によっては彼らをヒタキ科、ガビチョウ科、甚だしくはカラス科の1亜科とするものもいた。筆者は(1958)ダルマエナガを単一の属、即ち *Paradoxornis* とし、ヒタキ科のガビチョウ亜科の中に置いた。今日多くの学者がこれに同意している。ダルマエナガ属を一つの単一属とするのは、これは相当複雑な一群の分類処理上、簡潔な方法ではあるが、しかし、このような手法では、この一属の中の異った特殊性を表すことはむづかしい。Sharpe (1883) はダルマエナガを *Suthora*, *Chleuasicus*, *Paradoxornis*, と *Cholornis* の4属に分けた。Stuart Baker (1922) はインド亜大陸のやや異なるダルマエナガを含め *Suthora*, *Paradoxornis*, *Psittiparus*, と *Neosuthora* の4属とした。Hartert and Steindacher (1932-1938) は *Suthora*, *Psittiparus*, *Cholornis* の3属を承認した。しかし、最近 Wolters (1982) は、かえって細分化し *Suthora*, *Calamornis*, *Cholornis*, *Psittiparus*, *Paradoxornis*, *Neosuthora* 等の6属に分けた。これで見るとようにダルマエナガ属の区別について学者間の意見も今日なお大きく分かれている。

筆者は分類作業の基本的類縁関係を説き明そうと考えた。この煩雑な属の分類に対して、彼らのそれぞれの間の類縁関係について明らかにし、また簡略化に努め、一般の学者が応用できるようにしたいと考え、すべてのこの大きな集団に共通する性質をまとめて一つの大きなダルマエナガ属、すなわち *Paradoxornis* とした。同時にそれぞれの特殊性を4つの亜属に再区分し、次の通り検索した。

- 1. 尾長より翼長が長い..... 2
- 尾長と翼長が等しいか翼長が短い..... 3
- 2. 嘴峰の厚さが嘴峰長より大きい。上嘴の縁が大きな波状——オオダルマエナガ亜属 *Paradoxornis*
- 嘴峰の厚さ嘴峰長と等しい。上嘴の縁が浅い波状か直線..... コダルマエナガ亜属 *Suthora*
- 3. 翼長が70mmを超える。尾長と翼長が等しい..... 鷓鴣雀亜属 *Psittiparus*
- 翼長が60mmを超えない。尾長より翼長が短い..... 短尾ダルマエナガ亜属 *Neosuthora*

## 1. オオダルマエナガ亜属 (大鷓鴣雀亜属) *Paradoxornis*

体形が大きい、翼長が75mm以上、眉斑がない..... ムナグロダルマエナガ *P. flavistris*  
体形が小さい、翼長が70mm以下、眉斑が顕著..... カオジロダルマエナガ *P. heudei*

### I. ムナグロダルマエナガ *Paradoxornis flavirostris* Gould

3 亜種似分けることができる、内新亜種が1.

- 1. 喉と前胸部に白と黒褐色の横斑—————基亜種 *P. f. flavistris*  
 喉と前胸部に黒褐色の矢状斑—————2
- 2. 体形が大きい、翼長は86mm以上。—————華南亜種 *P. f. guttaicollis*
- 3. 体形が小さい、翼長が36mmを超えない。—————貢山亜種 *P. f. gongshanensis*

(1) 基亜種 *P. f. flavistris* 分布はチベットの米許米山脈、国外ではネパール東部、インドアッサムからビルマ西部。

(2) 華南亜種 *P. f. guttaicollis* 我が国の南部およびインドシナ半島北部の我が国から連なる山地から西へバングラデシュ、インドアッサム地域に分布する。この亜種と基亜種はよく似ているが、たとえば Ali and Ripley(1971) によれば、体形の大きさ、鳴き声、喙の大きさ、後趾等異なる点がある。同時に、この異なる個体群はインドアッサム地方において分布域が接続しているが、交雑はまだ発見されていない。基亜種の生息は標高1500mの高地であるが、華南亜種はさらに高い地域に生息する。これによりこの2亜種の混在はなく独立した種と考える。すなわち、ムナグロダルマエナガ(黒喉鴉雀 *Paradoxornis flavirostris*) とムナフダルマエナガ(斑喉鴉雀 *P. guttaicollis*) である。

(3) 貢山<sup>ゴンサン</sup>亜種 *P. f. gongshanensis* Cheng, nov. ssp. 雲南西北部および西部の一個体群、その外観、形態は華南亜種とよく似ているが、体形がより小さい。現在まで両亜種の翼長の比較は以下の通りである。

華南亜種 <i>P. f. guttaicollis</i>		貢山亜種 <i>P. f. gongshanensis</i>	
四川省 雅安市天全	2♂ 88-89	雲南省西部	
広西省 瑤山, 羅香	3♂ 88-88.3	貢山, 麗山, 漾濞, 漣水, 12♂ 85.5(81-86)	
	3♀ 86-90		
福建省 建陽, 南平	4♂ 86-88	騰冲, 易武 5♀ 80.9(80-82.5)	
邵武, 沙県	2♀ 82-88		

表により貢山亜種は翼長が明らかに短く、喙も小さい。したがってこれを新亜種とする。

標本(48213号) 1♂ 1960.11.30 雲南省漾濞(標高1700m)において採集

標本(48214号) 1♀ 採集同上

標本の所在 北京中国科学院動物研究所

II. カオジロダルマエナガ *Paradoxornis heudei* David

単型亜種 東北地方の興凱湖において再び発見された新亜種

頭頂の灰藍が多い。体色がより淡い。背部の灰色斑がない。—————黒竜江亜種 *P. h. polivanovi*

頭頂が淡い赤褐色。体色がより濃い。背部の灰色斑が顕著。—————基準亜種 *P. h. heudei*

この2つの亜種は1つが長江下流(基準亜種)に、他の1つが遠く離れて黒竜江省に分布する。似ているこれらが不連続的に分布していることは、中間に生息していたこの種が絶滅し、分布が隔離されたもので、このような不連続的な分布をするこの種は絶滅危惧種と推測される。

2. コダルマエナガ亜属(小鶉雀亜属) *Suthora*

9種が属し、検索は以下の通り。

- 1. 三趾を有する—————ミツユビダルマエナガ *Paradoxornis paradoxus*  
 四趾を有する————— 2

- 2. 頭部は灰色, 胸が赤色——ハイズキングルマエナガ *P. przewalskii*  
頭部は灰色でなく, 胸が赤色でない ..... 3
- 3. 喉が黒い ..... キバネダルマエナガ *P. nipalensis*  
喉が黒くない ..... 4
- 4. 眉斑が顕著 ..... 5  
眉斑が不鮮明, もしくはない ..... 6
- 5. 背部がオリーブ褐色, 胸が灰褐色——ヒマラヤダルマエナガ *P. unicolor*  
背部がオリーブ黒褐色, 胸が白色, 淡い赤色 ——ズアカダルマエナガ *P. atrosuperciliaris*
- 6. 眼瞼が白い ..... 7  
眼瞼が白くない ..... 8
- 7. 頭頂が黒褐色を帯びる——メジロダルマエナガ *P. conspicillaris*  
頭頂が灰褐色——ウスグロダルマエナガ *P. zappeyi*
- 8. 頭頂が黒褐色, 背部がオリーブ褐色——ダルマエナガ *P. webbianus*  
頭頂の中央が橙黄色, 背部がオリーブ黄色 ——アカバネダルマエナガ *P. fulvifrons*

I. ミツユビダルマエナガ (三趾鴉雀) *Paradoxornis paradoxus* (Verreaux)

原系単型種。我々は1966年に太白亜種として提出した, 区別は下のとおり。

- 眉斑棕褐色, 体上面が灰褐色——基準亜種 *P. p. paradoxus*
- 眉斑黒褐色, 体上面オリーブ灰色, 前背部黒褐色の黄斑——太白亜種 *P. p. taipaiensis*

II. ヒマラヤダルマエナガ (褐鴉雀) *Paradoxornis unicolor* (Hodgson)

基準種を除くほか, 以前から提出されている2つの新亜種, すなわち “*Suthora unicolor canaster*” Thayer et Bangs, 1912 (四川省西部) と “*Paradoxornis unicolor saturation*” Rothschild 1920 (雲南省西北部) であるが, 今日もおお全てが確立しておらず, したがってこの種は単型種と見られている。

III. メジロダルマエナガ (白眉鴉雀) *Paradoxornis conspicillatus* (David)

2亜種がある。基準種 *P. c. conspicillatus* と湖北亜種 *P. c. rocki* で Bangs et · Peters の2者はこれを区別しており, 鄭作新もこれに加わっている (1966)。

IV. ダルマエナガ (棕頭鴉雀) *Paradoxornis webbianus* (G. R. Gray)

鄭作新 (1976) によると, 本種は11の亜種を有する。最近また新しい亜種が提出され (李桂垣, 1980), これと共に12亜種となった。以下に列举する。

- 1. 風切羽の外縁が赤みがかった棕褐色 ..... 2  
風切羽の外縁が褐色 ..... 8
- 2. 胸部が淡い赤色 ..... 3  
胸部の淡い赤色がなく灰色 ..... 6
- 3. 喉がわずかに暗色の細い斑紋 ..... 台湾亜種 *P. w. bulomachus*  
喉の暗色斑紋がない ..... 4
- 4. 頭頂が濃い赤色, 両頬がやや赤い ..... 滇東亜種 *P. w. yunnanensis*  
頭頂が赤色を帯びた棕褐色 ..... 長江亜種 *P. w. suffusus*  
頭頂が浅い棕褐色 ..... 東北亜種 *P. w. mantschricus*  
頭頂が暗色の葡萄酒色を帯びた棕褐色 ..... 5
- 5. 頭頂の棕褐色と背部のオリーブ褐色が暗色, 胸部の棕褐色がやや濃い ..... 基準種 *P. w. webbianus*  
頭頂の棕褐色が浅い, 背部が棕褐色, 胸部から腹部へ赤を帯びた棕褐色 ..... 華北亜種 *P. w. fulvicauda*
- 6. 両頬と耳羽が灰色 ..... 7

- 両頬と耳羽が赤身を帯びた棕褐色..... 甘洛亜種 *P. w. ganluoensis*  
 7. 頭頂は赤みを帯びた棕褐色, 背部は棕褐色..... 四川亜種 *P. w. alphnsianus*  
 頭頂は赤みを帯びた棕褐色, 背部は暗褐色..... 貴州亜種 *P. w. stresemanni*  
 8. 喉と胸は深みのある葡萄酒色で, 栗色の縦紋, 耳羽は赤みを帯びた栗色, 頭頂もこれに近い 滇西亜種 *P. w. brunneus*  
 喉と胸は肌色に顕著な栗色の縦紋, 耳羽はピンクを帯びた棕褐色..... 9  
 9. 頭頂は深い栗色..... 金沙江亜種 *P. w. ricketti*  
 頭頂は浅い栗色..... 大理亜種 *P. w. styani*

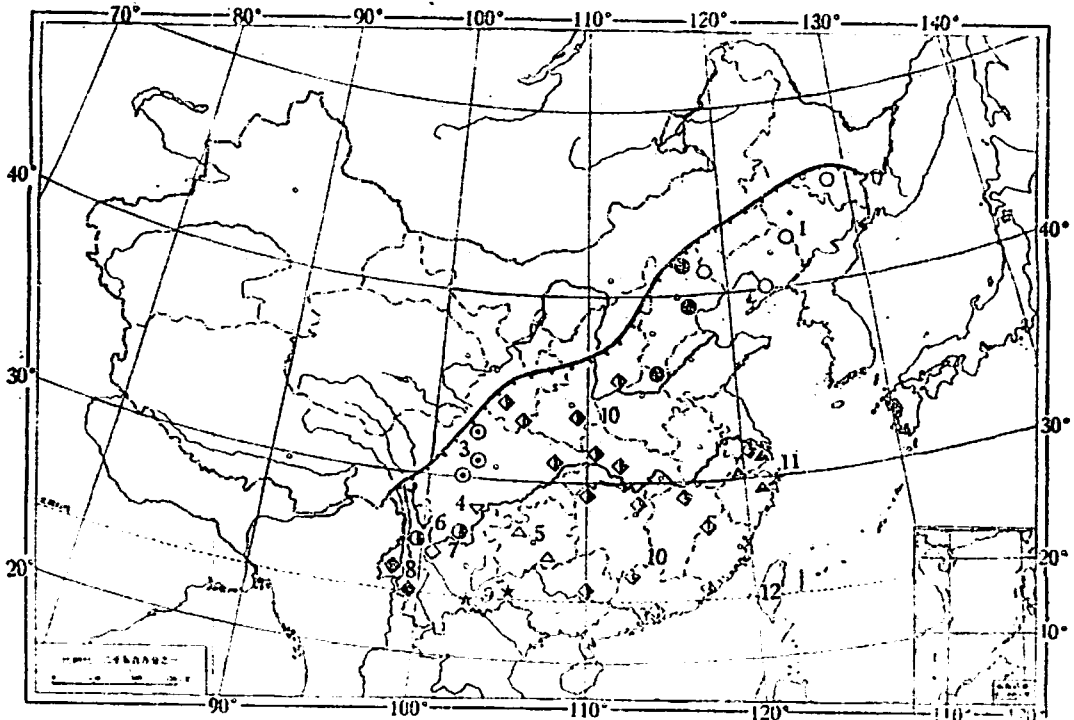


図1 ダルマエナガ *Paradoxorunis webbianus*

- |                                |                               |                                  |
|--------------------------------|-------------------------------|----------------------------------|
| 1. <i>P. w. manschuricus</i> ○ | 2. <i>P. w. fulvicauda</i> ●  | 3. <i>P. w. alphnsianus</i> ⊙    |
| 4. <i>P. w. ganluoensis</i> ▽  | 5. <i>P. w. stresemanni</i> △ | 6. <i>P. w. ricketti</i> ⊙       |
| 7. <i>P. w. styani</i> ◇       | 8. <i>P. w. brunneus</i> ◆    | 9. <i>P. w. yunnanensis</i> ★    |
| 10. <i>P. w. suffusus</i> ◇    | 11. <i>P. w. webbianus</i> ▲  | 12. <i>P. w. bulomachus</i> (台湾) |

ダルマエナガの亜種分化はかなり複雑で(図1), Deignan (in Mayr and Paynter, 1964)はダルマエナガ1種の亜種によるものではなく, それぞれ異なる種によるとし, これを以下の3種に分けた。

1. *Paradoxorunis ricketti*,
2. *Paradoxorunis webbianus*..... *nantschuricus*, *fulvicauda*, *webbianus*, *suffusus*, *bulomachus*, *elisabethae*, and *brunneus*を含む。
3. *Paradoxorunis alphnsianus*..... *alphnsianus*, *stresemanni*, (syn. of *alphnsianus*), and *yunnanensis*を含む。

Traylor (1967)はこの種の分類について, 非常に不適当だとしている。Deignanは風切羽の羽縁が褐色をしている *ricketti*を独立種としているが, かえって風切羽の羽縁が褐色をしている

*brunneus*の風切羽羽縁が赤みを帯びた“*Paradoxorunis webbianus*”の1亜種ではないか。同時に、*ricketti*と*brunneus*の風切羽の羽縁が褐色であるばかりでなく、四川省西南部および雲南省西部と西北部に生息する地理的分布からも交流があると考えられる。Deignanはこれらの考慮なく、この種のダルマエナガの風切羽の羽縁が褐色であるのと赤色を帯びたものを異とした。ほかに、Deignanは*stresemanni*を*alphnsianus*に一括している。筆者は*alphnsianus*と*stresemanni*はまとめることのできない1亜種であると認め、前者は四川省に分布しているが後者は貴州省に分布し、両者の形態的特徴は異なる(上記検索を参照)。さらにもう1点、*alphnsianus*は胸が灰色であるが、*yunnanensis*は赤色を帯びており、一緒にすべきではない。Traylorは同じ論文(1967)の中で、ダルマエナガについて下記の3亜種に分けている。

1. *P. w. brunneus* ..... *ricketti*と*styani*を含む
  2. *P. w. webbanus* ..... *mantschuricus*, *fulvicauda*等を含む、四川の*alphnsianus*と混交
  3. *P. w. alphnsianus* ..... *stresemanni*と*yunnanensis*等を含む、四川の*webbanus*と混交
- 最近李桂垣等(1980)が四川省の甘洛地区で発見した新亜種で、甘洛亜種*P. w. ganluoensis*とし、これはちょうど*P. w. alphnsianus*と*P. w. suffusus*の中間型である。

筆者は、非常に多くのダルマエナガ各亜種の分布と生態等に関わる資料を前に、このダルマエナガを2つの亜種群に分けないわけにはいかない。

1. 風切羽の羽縁が赤い亜種グループ(red wing-edged subspecies group)

- (1) 胸の赤い亜種群. *P. w. mantschuricus*, *fulvicauda*, *webbanus*, *suffusus*, *bulomachus*を含む
- (2) 胸の灰色亜種群. *P. w. alphnsianus*, *stresemanni*を含む

2. 風切羽の羽縁が褐色の亜種グループ(brown wing-edged subspecies group)

*P. w. brunneus*, *ricketti*, *styani*を含む

これらの亜種グループと各亜種群は新種形成過程中の段階にある可能性があるが、しかし、新種としては未確定の段階で、最も穏当な方法として*P. w. webbanus*にまとめることにある。

V. ウスグロダルマエナガ(暗色鴉雀)*Paradoxorunis zappeyi* (Thayer et Bangs)

原系単型種。最近発見された新亜種、二郎山亜種*P. z. erlangshanicus* Cheng, Li, and Zhang, nov. ssp. 両者の特徴は体色が深く、濃いものと浅く淡いものによる(詳しくは鄭作新等, 1983を参照)。本種の分布は四川省東部から貴州省西部のわずかに限られた地域のみである。

VI. ハイズキンダルマエナガ(灰冠鴉雀)*Paradoxorunis przewalskii* (Berezowski et Bianchi)

単型種、わずかに甘粛省南部と西南部に分布し、個体数はきわめて少なく、近年来採集されていない。疑いなく絶滅危惧種である。

VII. アカバネダルマエナガ(黄額鴉雀)*Paradoxorunis fulvifrons* (Hodgson)

国内では以下の3亜種が発見されている。

南チベット亜種*P. f. chayulensis* (Kinnear), 西南亜種*P. f. albifacies* (Mayr et Birckhead), 秦嶺亜種*P. f. cyanophrys* (David).

特徴識別については鄭作新(1966)を参照されたい。

VIII. キバネダルマエナガ(橙背鴉雀)*Paradoxorunis nipalensis* (Hodgson)

もともと3種*P. nipalensis*, *P. poliotis*, *P. verreaux* (Yen, 1936参照)とされていたが、今日では単一種*P. poliotis*に、以下の6亜種とされている。

1. 体上面が橙褐色、頸の側面が石版様の灰色..... 滇西亜種*P. m. poliotis*  
体上面が黄色を帯びた赤褐色、頸と背中も同色..... 2
2. 体上面が暗色のオリーブ褐色..... 台湾亜種*P. n. morrisonianus*

表1 ダルマエナガ属 *Paradoxornis*

種名 SPECIES	シベリア	朝鮮 Korea	越南 Vietnam	泰国 Thailand	印度 India	緬甸 Burma	中国 CHINA							
							1	2	3	4	5	6	7*	
I. <i>Paradoxornis</i>														
1. <i>P. flavirostris</i>			+	+	+	+					+	+	+	
2. <i>P. heudei</i>	o						+					+		
II. <i>Suthora</i>														
1. <i>P. paradoxus</i>								+				+	+	
2. <i>P. unicolor</i>						+	+					+		
3. <i>P. conspicillatus</i>								+					+	
4. <i>P. webbianus</i>	+	+	+				+	+				+	+	+
5. <i>P. zappeyi</i>												+	+	
6. <i>P. przewalskii</i>									+					
7. <i>P. fulvifrons</i>						+	+		o			+	+	
8. <i>P. nipalensis</i>				+		+	+					+	+	+
9. <i>P. atrosuperciliaris</i>						+	+					+		
III. <i>Psittiparus</i>														
1. <i>P. ruficeps</i>			+	+	+	+						+		
2. <i>P. gularis</i>			+			+	+					+	+	+
IV. <i>Neosuthora</i>														
1. <i>P. davidiana</i>			+	+		+							+	
共 計	1	1	5	4	7	9	2	4				10	10	4

\* 欄は動物地理区を指す。1=東北区, 2=華北区, 3=内モンゴル新疆区, 4=青海チベット区, 5=西南区, 6=華中区, 7=華南区

体上面が橙色を帯びた棕褐色..... 3

3. 胸, 腹および両脇は白色..... 四川亜種 *P. n. verreauxi*

胸, 腹白色わずかに棕褐色, 両脇は棕褐色..... 4

4. 体上面は橙色が濃い..... 瑤山亜種<sup>4</sup> *P. n. craddocki*

体上面の橙色はより淡く, オリーブ色を帯びる..... 桂墩亜種 *P. n. pallidus*

#### IX. ズアカダルマエナガ(黒眉鴉雀) *Paradoxornis atrosuperciliaris* (Godwin-Austen)

雲南西部の限られた地域に分布し, 個体数がきわめて少ない。

### 3. 鶺鴒亜属 *Psittiparus*

2種に分けられる。

頭頂が栗褐色, 喉が白い..... オオズアカダルマエナガ *P. ruficeps*

頭頂が灰色, 喉が黒色..... ハイガシラダルマエナガ *P. gularis*

#### 1. オオズアカダルマエナガ(紅頭鶺鴒) *Paradoxornis ruficeps* Blyth

我々はかつてチベットの墨脱において基準亜種を採集し, その承認文献は, *Paradoxornis ruficeps* Blyth, 1842, Journ. As. Sos. Bengal 11:177(プータン)

昆明動物研究所(1980, p. 216)貢山で採集した雌; 翼長88, 尾長87mmで, これとほとんど変わらないサイズであり, 本種であることを認めた。古い文献による“Baker, 1922, p. 114”では, 引用されている“*Suthora r. ruficeps* Blyth, 1845”は決して“*Paradoxornis ruficeps* Blyth, 1842”ではなく, やはり誤っており, 実は“*Paradoxornis atrosuperciliaris oatesi* (Sharpe)”の同物異名である。

#### II. ハイガシラダルマエナガ(灰頭鶺鴒) *Paradoxornis gularis* G. R. Gray

国内には2つの種がある。

翼長♂85~95mm(n=10). 背部は濃い棕褐色, 喉は黒色..... 華南亜種 *P. g. fokiensis*

翼長♀82~84mm(n=3). 背部は浅い棕褐色, 喉の黒色はより小さい..... 海南亜種 *P. g. hainanns*

### 4. 短尾鶺鴒亜属 *Neosuthora*

#### 1. タンビダルマエナガ(桂墩鶺鴒) *Paradoxornis dovianus* (Slater)

これは本亜属唯一の種である。福建省中部と西北部に基準亜種が, ほかにインドシナ半島北部に2亜種が分布する。

任国荣(1936)はダルマエナガを特立した科とし, 下に20種を分けた。Deignan (in Mayr and Paynter, 1964)はダルマエナガ属と別にヒタキ科のヒゲガラ亜科(Panurinae)を同列に置き, ダルマエナガ属をあわせて17種とした。本文ではダルマエナガ属を4亜属と17種とした。現在の彼らの分布範囲は前表に列挙した。

表から見られることは, 14種のダルマエナガは全て中国に分布し, ビルマ9種, インド7種, 朝鮮, 西シベリアが1種ずつとあとに続く。

我が国の地域内にすべての種が分布し, 華中区と, 西南区に多い。同時にダルマエナガの分布が最も広く, 亜種分化も多い。分化した亜種は2つのタイプに分けられる。すなわち, 風切羽の羽縁が赤色型と褐色型で, 同様の羽縁を有する亜種グループを我々は, 新種形成の過程であり, その一段階であると考えており, 上述の両グループが四川省西南部から雲南省西北部に分布し, これは我が国の西南地域横断山脈の中間にあたる。この地域は多くのダルマエナガ属が生息する

ばかりでなく、亜種グループが形成され、したがって、西南区、とくに横断山脈西部はダルマエナガ属分布の中心であり、起源地であると考え。この結論を得るに至ったのはガビチョウ属 (*Garrulax*) の研究 (鄭作新, 1982) について提出された論拠と一致する。

注 \* Deignan (in Mayr and Paynter, 1964) が認めた *stremanni* は *alphonsianus* の同物異名

\*\* Deignan (in Mayr and Paynter, 1964) の *stysni* は *brunneus* と *ricktti* の交雑型

#### 訳注

\*1 貢山；雲南省西部を流れる怒江はチベット東部に発し、下流はミャンマーのサルウィン川となる大河で、雲南省では、この河を挟んで4000m級の山が聳えており、この地域を貢山と言う。 p2

\*2 滇東亜種；滇とは雲南省の別称、雲南東部亜種。 p3

\*3 甘洛亜種；甘洛は四川省南部の甘洛県 p4

\*4 瑶山；広西壮族自治区にある瑶山 p6